時代の変化の先を読み安全で便利な社会のインフラを支えるための技術・サービスの開発に挑戦し続ける

沖電気工業株式会社　鎌上 信也 社長

インタビュアー　八塩 圭子／写真 高橋 恒治

沖電気工業株式会社
本　　社／〒105-8460
東京都港区虎ノ門1-7-12
［URL］https://www.oki.com/jp/
創　　業／1881（明治14）年1月
資 本 金／440億円
従業員数／4,024名
（2018年3月31日現在）

F・Interview
トップ・インタビュー

鎌上 信也（かまがみ しんや）氏
1981（昭和56）年3月山形大学工学部卒業、同年4月沖電気工業株式会社入社。2011（平成23）年4月同社執行役員 システム機器事業本部長、2012（平成24）年4月同社常務執行役員、2014（平成26）年6月同社取締役常務執行役員、2016（平成28）年4月同社代表取締役社長執行役員に就任、現在に至る。山形県出身、59歳。趣味はゴルフ、散歩。

日本初の電話機を生んだ創業から、もうすぐ140年

八塩　御社は1881（明治14）年に明工舎として創業され、現在に至る長い歴史をお持ちです。本日はまず、御社の沿革、現在展開されている事業内容などについてお話しいただけますか。

鎌上　沖電気工業の前身となった明工舎は、沖牙太郎が創業し、日本で最初に電話機を製造した会社で、当社の社名は創業者にちなんだものです。沖牙太郎が掲げた「進取の精神」は創業以来受け継がれ、現在もグループの企業理念となっています。世界初の紙幣還流型ATMの開発、国産初のVoIPシステム市場投入など、常に世の中に先駆けた意欲的な商品を社会に送り出し続け、情報社会の発展に貢献してきました。

幅広い分野で便利な生活のための技術やサービスを提供

八塩　現在のビジネスの柱は、どういったものになるのでしょうか。

鎌上　当社では、4つの事業セグメントが柱となっています。

1つは情報通信事業です。140年に及ぶ歴史の中で築き上げた顧客基盤とそこで培ったOKIならではのデバイス群、音響・光センサーを特長としたセンシング技術、ネットワーク技術、運用技術ノウハウを保有しています。そして交通、官公庁、地方自治体、金融、運輸、流通などの社会インフラを支える様々なソリューションを提供しています。

2つめはメカトロシステム事業です。OKIの得意とするメカトロ技術をコアに、金融機関向けのATMをはじめ現金処理機や営業店端末、旅客・運輸業向けの予約発券機や自動チェックイン機、流通・サービス業向けの現金処理機などを提供しています。

ATMについては日本でトップのシェアを持っています。また、海外では出金のみに対応したATMから、より効率的な運用が可能な紙幣還流型ATMに切り替える動きがあり、当社も、中国、インドネシア、ロシア、ブラジルといった新興国地域で、日本で培った技術を生かし、ATM事業を展開しています。

3つめはプリンター事業です。OKIの特長であるLED技術を活かしたLEDプリンターと複合機、そして大判プリンター、ドットインパクトプリンターを世界100カ国で提供しています。プリンター事業は、日本での売上が3割程度で、ヨーロッパが4割、アメリカが2割と海外比重の高い事業となっています。

4つめが、EMS事業です。メーカーとしての長い歴史の中で培ったモノづくりのノウハウと豊富な実績を背景に、製造だけでなく、設計・試験・検査など様々なプロセスで、お客様のご要望に合わせた受託サービスを提供しています。高品質、高信頼性、多品種少量生産を実現し、幅広いニーズに対応することで、現在、大きく業績を伸ばしている分野です。

八塩　私たちの便利な生活を様々な場面で支えてくださっているのですね。お世話になっております。

さて、2017（平成29）年に「中期経営計画2019」を発表され、今年は2年めということですが、中期経営計画についてお聞かせください。

鎌上　中期経営計画では、「〝モノづくり・コトづくり〟を通して、より安全で便利な社会のインフラを支える企業グループ」の実現をビジョンに掲げ、様々なイノベーション創出にチャレンジしています。現在の計画は2019年を最終年度としていますが、そこで終わりではなく、企業は持続的に成長していかなければなりません。次代に向けた種まきをし続けていかなければならないと考えています。

当社を取り巻く環境は大きく変化しています。以前から言われていた、ペーパーレス化は今後ますます進むでしょうし、最近では、海外で先行していたキャッシュレス化が日本でも急速に進展しています。デジタル変革とも言われるデータを活用した技術革新により、ビジネスの形態も大きく変わろうとしており、それに合わせて当社のお客様も様々な改革を進めています。

そのような世の中の変化を迅速に捉え、必要に応じて、戦略も変更しつつ、中期経営計画を推進しているところです。

SDGsを起点に世界的な課題解決のための新たなアイデアを探索

八塩　今の中期経営計画のその後も見据えて動いているということですね。

鎌上　そうです。今までは〝B to B〟でお客様企業の要求を伺いながら商品を提供してきましたが、これからは〝B to B to C〟、企業の先にいる消費者のニーズを捉えながら新しい事業を起こしていかなければならないと考えています。

そんな挑戦の1つが、今年の4月に発足したイノベーション推進部です。従来の事業開発とは分離した形で、将来を見据えた新しい事業創出に挑戦する部門として活動を進めています。

また、国連が定めた世界の持続可能な社会のための開発目標「SDGs（Sustainable Development Goals）」に着目した取り組みも推進しています。SDGsを起点に社会課題を考えることで、新たな事業機会を見つけることができると考えての挑戦です。4月から1千人規模の社員を対象として、この考え方を全社に展開するためのプログラムもスタートさせました。

八塩　SDGsにフォーカスした事業機会創出の取り組みも始まっているそうですね。

鎌上　「Yume Pro（ゆめぷろ）」というプロジェクトを今年度からスタートしました。OKIのコーポレートスローガンである「Open up your dreams」にちなんで、「夢プロ」と命名したのですが、社内だけではなく、社外の方も含めた議論を通してイノベーションを創出するプロジェクトです。これまで当社だけでは発想できなかったような新たな事業を生み出す取り組みとなっています。

八塩　IoTが世の中に広がっていく中で、御社の果たす役割はますます大きくなりそうですね。期待しています。お忙しいとは思いますが、そんな日々の中でお休みがとれた時、社長はどのようにお過ごしなのでしょうか。

鎌上　下町や商店街、都内の庭園などを散歩するのが週末の日課になっています。運動不足の解消も兼ね、歩数計で「今日は何歩歩いたかな」と確認しながら楽しんでいます。先週は1日2万歩も歩きました。

八塩　興味深いお話をたくさん伺うことができました。ありがとうございました。

八塩 圭子さん
東京生まれ。上智大学法学部卒業後、テレビ東京に入社。「出没!アド街ック天国」「株式ワイドオープニングベル」などを担当する。その後フリーとなり、「めざましどようび」メインキャスターや「みのもんたの朝ズバッ!」コメンテーターなどを務める。現在キャスター、コメンテーター、フリーアナウンサーとしてテレビ・ラジオ出演や講演、執筆など多彩に活躍する。また、経営学修士号（MBA）をもち、「広告、マーケティング」を専門テーマに東洋学園大学現代経営学部で准教授として教壇に立つ。

◎インタビューを終えて

ATMや電車のチケットなど、生活に身近なサービスやインフラを手掛け、最先端の開発に取り組んでいる会社なのだということがよくわかりました。社長はコミュニケーションを大切にする方とお見受けしました。そこから新しいものが生まれることへの期待をお持ちなのですね。お話の中に〝B to B to C〟という言葉が出てきましたが、自ら新しいライフスタイルや技術の開発に打って出ようという心意気が素晴らしいと感じました。（八塩）

※このインタビューは2018年7月13日に行われたものです。